

ふれあい

主な内容

- 1P. 第23回秋季大運動会
- 2P. 第32回一中地区コミュニティまつり
- 3P. あれや・これや／私のたのしみ
- 3P. 1中コミセンコーナー／地域のわだい
- 4P. 地元の歴史
- 4P. 心にのこる思い出／部会だより

●発行所/ひたちなか市長堀町3-4-1 (1中地区コミュニティセンター内) ☎029-275-2671 ●発行責任者/坂井 久彦 ●編集/広報委員会

3年ぶりの 第23回秋季大運動会

10月8日、長堀小グラウンドで第23回一中地区秋季大運動会が行われました。平成27・28年は雨天のため中止でしたが、今回は天候に恵まれ、参加した12自治会の皆さんは、3年ぶりの競技や応援に大いに盛り上がりました。各自治会とも頑張り、実力を発揮した三反田自治会の優勝で幕を閉じました。



二人仲良く



綱引き



未来ヘダッシュ



総合リレー



パンくわえリレー



心を一つに



優勝! 三反田自治会

成績結果表

種目	自治会	勝田駅前南	勝倉	笹野	東中根団地	中根	大成町	西中根	長松	三反田	大平	金上	富士山
輪投げリレー		5	4	0	4	3	2	5	3	5	3	4	2
三世代ピン倒しリレー		2	3	1	3	4	2	4	3	5	5	5	4
ボールにおまかせ		5	4	2	2	4	3	3	5	4	2	3	5
二人仲よく		4	3	2	3	2	4	4	2	5	5	5	3
心を一つに		3	5	3	2	4	2	4	2	3	5	5	4
パンくわえリレー		4	2	3	5	4	2	5	3	5	3	4	2
綱引き		5	3	0	3	3	3	5	3	5	4	4	4
ケツ圧測定		4	4	2	4	3	5	3	2	5	3	2	5
総合リレー		4	3	3	0	4	3	5	2	5	5	4	2
総合得点		36	31	16	26	31	26	38	25	42	35	36	31
順位		4	7	12	9	8	10	2	11	1	5	3	6



アトラクション (一中吹奏楽部)

第32回 一中地区コミュニティまつり

11月11・12日「第32回一中地区コミュニティまつり」が開催され、朝早くから大勢の人で賑わいました。

今年是一般公募の作品も展示され、また初めての抽選会がまつりを盛り上げました。



大盛況!! 喫茶コーナー



抽選会 当たるといいな(*^▽^*)



体の年齢は若いね!



日ごろの出来栄え上々(〜〜)



バードカービング



焼きそば まかせろ!!



美味しいですよ〜(*^o^)/

青空市場の今昔

体育部会長 川又吉次

体育部会は、第1回コミセンまつりから青空市場を担当してきました。野菜・果物の販売からスタートし、数年後に焼きいもを始め現在の姿になりました。長芋・ゴボウを求めて長い列ができたリ、朝早く茨城町の農家に行き出しに行った事など懐かしい思い出です。

焼いもは、焼いも作り名人の故大高操さん(西中根)からの薫の提供と指導を受けて始めました。今年も2基の窯で美味しい焼いもを販売し、盛況でした。

天候や客足を心配しながらも地域の人達と笑顔で会話し、完売した時の喜びを感じながら32年が過ぎました。



初めて参加しました

東中根団地デジカメクラブ 倉田允弘

当クラブは、東中根団地自治会の各種団体のひとつで10年前に発足しました。現在の会員は28人いますが、今回はスペースの関係で19人だけ出展しました。私たちは市民ギャラリーなどで写真展を毎年2回開催していますが、今年は3回目の発表展になります。

作品内容はまだまだ発展途上ではありますが、「コミュニティまつり」でも多くのお客様にご覧いただき、私たちの今後の活動の励みにもなるようなお褒めの言葉や、建設的なご意見をたくさんいただき感謝しております。初参加の私たちを暖かく迎え入れていただいた運営スタッフの皆様方にお礼申し上げます。



あれや・これや



地域×行事×多世代

|| 和と絆

西中根自治会

小林 定吉

19年前、市内のとある地域の土地を買う契約書に押印した翌朝一番、不動産屋からの電話が鳴った。2時間のタツチの差で売却済だったと。しかし、後に西中根との縁が待っており、結果的には良かったと思う今日この頃です。

西中根に住んで18年。ちょっと歩けば湊線の映えるのどかな田園風景、そして沢山の年中行事を通じて老若男女、世代を跨いだコミュニケーション盛んな地域性は、お祭り好き酒好きの私に相性ピッタリです。

ルに地域との接点や行事の絡まない月はありません。思えば建てた家の隣がソフトボールの監督であつたこと、会社の先輩方が自治会で活躍されていたこと、そして早い段階で組長の当番が回ってきたことが、私と地域の接点を創り、深めるきっかけでした。子ども会・PTA・自治会のスポーツ振興会や広報紙の編集に関わり、さらには5年前、運動会の祝勝会で先輩方の熱いご指導と酒の勢い？から「西中根おやじの会」を立ち上げることになったあたりで、私と地域の関係性が形成されたのかなと振り返る次第です。

子ども会

勝倉自治会

武石恵美子

日頃より、渡邊自治会長をはじめ、自治会の皆様のご支援・ご協力をいただきながら、さまざまな子ども会は日々、楽しく活動しております。

毎年夏に開催される「勝倉まつり」は、子ども達がひととき楽しみにしている行事の一つです。出し物は、小学校でも踊る「勝倉ソーラン」。皆、真剣に踊ります。子ども達の目を見ると「ああ、この子達が将来大人になって、この地域を支えてくれるんだな、頼もしいなあ」と、胸が熱くなります。

今後多趣味・多様な地域コミュニケーションを

盛り上げていきたいと思

います。

一生懸命踊ったご褒美に自治会から食券をいただき、焼きそばや唐揚げ、ポップコーン等でお腹を満たした後、また真剣な面持ちで計3回踊りました。達成感に満ち溢れた表情の子ども達は、本当に愛おしいです。

親だけでなく、たくさん

の大人と接し、様々な経験をしながら育つ子ども達は、きつとどんな困難にも立ち向かって行けると信じます。今後も育成会のお父さんやお母さん、地域の皆様も一緒に楽しめる、そんな温かい子ども会を目指し、活動して行きたいと思



1中コミセンコーナー

◎ヒップホップで健康づくり

ヒップホップダンスは若者の踊りと思われがちですが、高齢者の中でも人気が高まっています。

1中コミセンではシニアを対象に10〜12月の水曜日、計6回のヒップホップダンス講習会を開催、毎回約30人が受講しました。未経験者も講師の親身な指導ですぐに上達。1時間半、体を動かし、さわやかで心地よい汗を流しました。

私のたのしみ

写真とカメラ

安 博久さん (67)



実家の農業を継ぎ、シニア社員としても働く安博久さんは、生まれも育ちも中根。古い車の修理など色々な趣味をお持ちですが、今回は写真とカメラのお話を伺いました。

安さんが写真に興味を持ったのは高校時代。白黒画像の濃淡を現像処理でコントロールし、イメージどおり仕上げるのが楽しく、熱中したそうです。就職・結婚と環境は変わりましたが、この気持ちは今も変わりません。カラーには無い「白黒の濃淡による表現の奥深さ」に魅せられ、撮影は今もモノクロフィルムを使用。一方、仕上げには最近の技術を応用し、フィルム画像をスキャナーでパソコンに取り込み、編集後プリントアウトします。

作品は、街中の世相を反映した物や自身が面白いと感じた物が中心で、会心作は県芸術祭や所属する同好会(三軌会写真部)の展覧会に出品。何回か個展を開いた事もありました。「写真に込めた思いを、一人でも理解し共感してくれればうれしい」と語っています。

さらに、作品を作る過程で多くの人と出会い、親交を深める事も楽しみの一つで、飲んで語り合った仲間から古い高価なカメラを譲られた事もありました。

このような年代物のカメラが約30台、居間の棚にずらりと並んでいます。「ライカが故障しにくく、レンズにかびが生えないので最も良い」とのこと。多くは入手時に故障していましたが、自身で修理したそうです。その経験を活かし、最近ピンホールカメラ*を作り上げました。

このように趣味の道を歩んで来られたのは、奥様の理解があってこそ。「撮影が農繁期に当たっても気持ち良く送り出してくれた」と感謝も忘れません。

「この先、今までの作品を写真集にまとめて残すと共に、さらに良い作品を作り、個展を開きたい」と語る姿から、長い間手掛けて来た写真への深い想いと今後の意気込みが伝わって来ました。



自作のピンホールカメラ

*: レンズを使わず小穴からの光をフィルムに当て結像させるカメラ

地域のわだい

高齢者芸能発表大会

一中地区から8チームが出場

9月28日、市文化会館で、市の高齢者芸能発表大会が開催されました。

出場チームは市内36の高齢者クラブで、一中地区からは8チーム142人が出演。満席の会場を大いに沸かせました。

出演前のメンバーは緊張した面持ちでしたが、日頃の練習の成果を思う存分発揮した後は、晴れ晴れとした満面の笑みを浮かべ、満足した表情をしていました。



一中地区の出場チーム

クラブ名	題目	種目
長松友の会	サザエさん	リズム体操
笹野長寿会	博多夜船	民謡
三反田すみれ会	走天涯	フォークダンス
富士山クラブ	百歳音頭	民謡舞
中根ときわ会	しあわせ音頭	民謡舞
東中根豆地あずま会	ふるさと・もみじ	合唱
西中根六美会	1中地区ふれあい音頭	舞踊・合唱
大平睦会	水戸黄門漫遊記	銭太鼓

菊花展

10月26日から11月9日まで、第29回ひたちなが市民菊花展が、市文化会館で開催。1中コミセンで雲類驚講師のもと、3月から1回実技講習で差し芽の仕方などを学び、10月までに作品を作り上げました。会場には、富士山や五重の塔をかたどった作品など色とりどりの菊600鉢が展示されました。市菊花愛好会連合会の会員数は約70人。高齢で年々人数が減少しているそうです。

夜は茨大生ボランティアの協力のもと、ランタン・キャンドルで菊の花や文字を形作って会場を飾り、さらに音楽で盛り上げていました。



富士山夏祭り

富士山自治会

8月5日、富士山夏祭りが行われました。この祭りは、40年以上前から続いています。

当日、3時に子ども神輿が町内を回り清めた後、夕方5時から芸能大会が始まりました。子ども達のアコーディオン演奏やダンス、大人のカラオケ、フォークダンス。最後の演目は、子ども達の「よさこいソーラン」。踊りながら神輿の周りを回りました。その後、親子で花火をして終了。

町内の役員さんによる準備が大変だったそうですが、屋台が何台も出て大人も子どもも楽しんでいました。



地元の歴史

勝倉出身の名行司「19代式守伊之助」

式守伊之助は、1886年（明治19年）12月15日、勝倉船渡に生まれました。本名は高橋金太郎。小学2年生の時、生糸業を営んでいた家が倒産。父は借金を抱えて家出。続いて母も突然姿を消すという悲劇に見舞われた金太郎は、学校をやめて水戸の糸屋に奉公に出ました。子守りから店の留守番まで任されるまでになりましたが、暇を見ては相撲をとりに出かけてしまうので、主人に見放されて追い出されました。

その後、常陸太田で石鹸の行商を始めました。やはり好きな相撲が忘れられず、行商から帰ると毎晩町内の子供たちを集めては行司をし、相撲に熱中していました。これに心を動かされた質屋のご隠居が、金太郎を上京させてくれました。明治32年、13歳の時でした。

まず、峰崎部屋に行司見習いとして住み込み、次に友綱部屋に移って行司の修行。明治33年に、初めて行司として土俵にあがることができました。

これからの本格的な修業が、また大変。毎朝3時に起床。装束と軍配を抱えて両国回向院の土俵へと駆けつけ、先輩に小突かれながらも、必死になって修業を積みました。幼年時代の悲しい苦しいどん底生活に耐えてきた金太郎には、どんな厳しい試練にも我慢できる、強い心と体が備わっていたのです。

昭和26年の春、金太郎65歳にして、行司界の最高位「第19代立行司式守伊之助」を襲名。身長152cmと小柄ながら、俊敏な動きと「ヒゲの伊之助」としてファンを魅了した名行司でした。

昭和36年には水戸市で引退記念相撲を催し立派に故郷へ錦を飾り、昭和41年12月14日（誕生日の前日）に80年の生涯を閉じました。



右相撲部員門人差加依・詮状初件
式守伊之助
昭和二十六年三月
水戸市立第一中学校
「写真集 勝田の歴史」より

世にのこる思い出

比島戦線からの生還

三反田自治会 打越英雄（100歳）

私が最初に戦争に行ったのは中国、22歳の時だった。日本の戦局（日中戦争）はまだ良好で、無事帰って来られた。それから結婚。娘が1歳になってから、2度目の招集。比島戦線であった。長崎からフィリピンまで、釜山や上海を経由して15日かかった。26隻の船団で11万人の兵隊が送り込まれたが、ろくな食料は与えられずいつも飢えていた。

前線への出撃命令が出た晩、空を仰ぎ「故郷を出てから2年。1歳だった娘は、さぞ大きくなっただろうな。この月が見おさめか」と涙したことを思い出す。この日の決死隊は我が隊より9名、総勢50名だった。「たとえ1名になろうとも任務を遂行せよ」との隊長の厳命。月が沈むのを待って後方より敵の兵舎に20mほど近づいた時、敵の方より銃弾。仲間3人が即死。隙を見て敵の兵舎を爆破し、重傷の仲間を背負って戻る途中狙撃され、坂の下まで転げ落ちた。手がザクロのようになった戦友。血だらけで「水を飲ませてくれ」と頼む姿が忘れられない。何人も赤痢で苦しむ中、私は炭を削って飲んで奇跡的に助かった。死闘も虚しく、比島戦での戦死者49万人を出して敗戦。

最終後は捕虜となり、フィリピンで作業をさせられた。最初は信用されず食料もわずかだったが、日本人は何をやっても優秀だと仕事を任されるようになった。1年半ほどで日本に戻る事ができた。三反田で、フィリピンから家に帰って来られたのは私1人だった。

旅のつばめは昨今も 懐かしい故郷の空に飛んで行く 比島戦の戦死者の魂は 何処に行かんとするの か 南国の空には 平和平等の鐘が鳴り響いている



打越英雄殿
あなたを百歳の長寿を
達成されたことには誠
に慶びたいと思います
三反田自治会より
当分ここに記念品を
贈りたいと思います
白根 安彦 啓三
内閣総理大臣より贈られた
100歳のお祝い状

部会だより

青少年部会

7月29日に、「三世代ふれあいチャレンジ教室」を長堀小体育館で開催した。子どもたち・育成会・高齢者クラブ・保護者など203人が参加し、水鉄砲・ポンプン駒・ハットポトル水族館・貝殻アートなどの工作を通じて、三世代間のふれあいを深めることができた。



環境部会

毎年、コミセンまつりでバザーを担当。11月6日、準備作業を行った。朝8時30分、各自治会から預かった品々をコミセンに搬入開始。部会員約30人が値付けと整理に追われた。設定価格をめぐって議論になる一幕も。今年は、約800点が集まった。午後3時に作業が終了した。



福祉部会

9月14日、21人の参加により視察研修を行った。鹿嶋市にある、薬物・アルコール・ギャンブル依存症回復施設の「潮騒シヨブトレーニングセンター」を訪れ、センター長とスタッフから回復の体験談を聞き、感銘を受けた。部会では、今後この問題に関心を持って取り組んで行きたい。



安全防災部会

9月5日、1中コミセンで36人が参加して安全教室を行った。安全協会石島事務局長の講話は、「茨城は交通事故ワースト5位、飲酒運転が多い。高齢の加害者が増えている」「交通事故例・事故を起こした時まず行うこと」などで、有意義だった。その後、コミセン駐車場で追突体験を行い、シートベルトの効果を実感した。



編集後記

今号は計画どおりに、一中地区運動会の記事を掲載することができ、ほっとしています。昨年と一昨年は雨天で運動会が中止となり、あわてて内容変更の取材に走った事を思い出しました。

皆様からの新しい話題や取材要請、ご意見等、広報委員一同大歓迎です。どうぞ1中コミセンまでお知らせください。時期によっては、次号に送る場合もありますので、ご了承ください。

